

# 府中町ふるさと歴史散策

〔第27回〕

## 文化財としての考古学の資料⑨

## 古墳時代の資料2

上岡田古墳の造られた丘陵と同じ堂所山から南西に延びる丘陵の南側の末端に規模の小さな横穴式石室の古墳が、かつて2〜3基あったが、戦後の食糧不足時代に階段状の畑に造成されたため、昭和53年に府中町史編纂のため遺跡の所在調査をしたときには、完全に姿を消していた。これらの古墳のあった地点の上方約20mの山腹に2基の小さな道隆寺東古墳2号、3号がある。いずれも南側に口を開く横穴式石室のものである。2号墳は内部の高さ70cm、幅約1mしかなく、上岡田古墳と比べて一段と小さなものである。これらの古墳は非常に小規模なもので、狭い範囲内に5基（2基が現存）がかたまつて造られていることから、群集墳の様相を示しており、上岡田古墳と性格の違うもので

ある。それは上岡田古墳の副葬品から、その被葬者が生前、鉄製武器で武装した権威を示していたが、道隆寺東古墳のそれは権威を誇るために造られたというものではない。これらの群集墳は、榎木川流域の狭い河谷低地と耕作可能な緩い扇状地の低湿地からの生産力を背景に、小規模ながらも古墳を造り得るまでに経済的に豊かに成長してきた有力な農民層の家族墓であったと思われる。

府中町文化財保護審議会会長

横田 禎昭

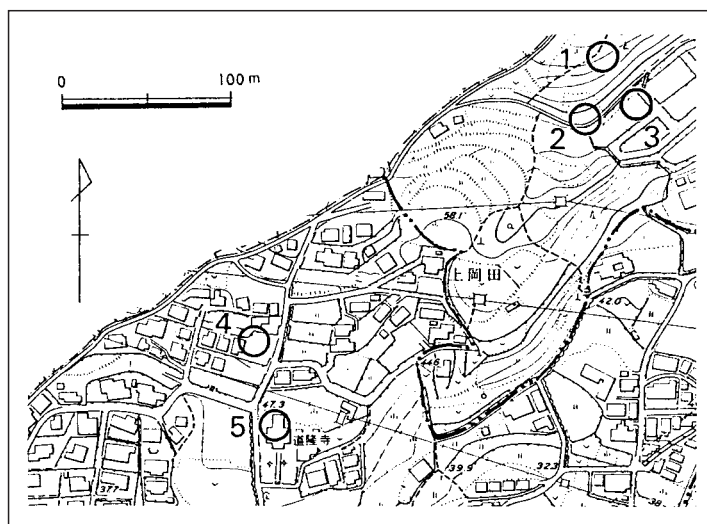
問い合わせ

教育委員会生涯学習課

☎ 286-3272



道隆寺東2号古墳



上岡田（城ヶ丘・みくまり）地区遺跡分布地図

- ①上岡田古墳 ②散布地（土師器） ③道隆寺東古墳
- ④上岡田古墳 ⑤道隆寺



上岡田古墳出土品 須恵器・平瓶  
（歴史民俗資料館で展示中）